

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	甲	第	号
------	---	---	---	---

氏 名 劉 寧

論 文 題 目

Characterization of bacterial biota in the distal esophagus of Japanese patients with reflux esophagitis and Barrett's esophagus

(日本人の逆流性食道炎患者およびバレット食道患者における下部食道細菌叢の特徴)

論文審査担当者 名古屋大学教授

主 査

柳野正人



委 員

名古屋大学教授

小寺泰弘



委 員

名古屋大学教授

門松建治



指導教授

後藤秀実



論文審査の結果の要旨

バレット食道は、逆流性食道炎の合併症の一つである。欧米では日本に比べて逆流性食道炎が多く、このバレット食道は食道腺がんが発展する可能性のある危険な病気であるとされている。口腔から肛門までの消化管には、正常な状態でも「正常細菌叢」あるいは「常在フローラ」と呼ばれる細菌群が生息している。部位により生息している細菌の種類はほぼ一定で、均衡が保たれている。バレット食道、逆流性食道炎においては、食道細菌叢との関連はまだ明らかにされていない。

本研究は食道疾患における細菌叢の役割についての理解を深めるため 16S rDNA 配列によるバレット食道と逆流性食道炎の食道下部の細菌叢を解析する。

本研究の新知見と意義は要約すると以下のとおりである。

1. 16S rDNA 配列による豊富な細菌属を検出した。
2. 正常食道、逆流性食道炎の食道とバレット食道は細菌数に違いはみられなかった。
3. 正常食道、逆流性食道炎の食道とバレット食道はそれぞれ違いがある細菌叢が検出された。
4. 正常ヒト食道と逆流性食道炎の食道では genus *Streptococcus* が最も多い細菌属であった。バレット食道では genus *Veillonella* が最も多い細菌属であった。
5. Genus *Fusobacterium* は正常ヒト食道では見つからなかったが、逆流性食道炎とバレット食道では各 9% をしめた。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。